

有明工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	体育実技	
科目基礎情報					
科目番号	0089	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気工学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	後期:1		
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール(大修館書店)				
担当教員	井上 仁志				
到達目標					
1.生涯を通して運動に親しむ態度を育て、各運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図ることができる 2.ネット型の球技で「サーブ」や「ラリー」ができる 3.ターゲット型の球技で意図したところに打つことができる					
ルーブリック					
評価項目1	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	「生涯スポーツ」という考え方を理解し、たくさんのお手本と一緒に積極的に参加することができる	「生涯スポーツ」という考え方を理解し、社会になんでも健康的に過ごせるよう積極的にスポーツに親しむことができる	「生涯スポーツ」という考え方を理解できず、スポーツに積極的に親しむことができない		
評価項目2	ネット型の球技のルールを理解し、基本的なプロトコルの応用ができる	ネット型の球技のルールを理解し、基本的なプロトコルができる	ネット型の球技のルールが理解できず、基本的なプロトコルができる		
評価項目3	ターゲット型の球技のルールを理解し、基本的なプロトコルができる	ターゲット型の球技のルールを理解し、10m程度であれば意図したところに打つことができる	ターゲット型の球技のルールを理解できず、10m程度であっても意図したところに打つことができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。 主観的に運動に取り組む姿勢や、生涯を通して運動に親しむ態度を育て、各運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図ることができる				
授業の進め方・方法	実技中心に進める 実技テスト、ルールテスト有り				
注意点	体力テスト評価 20%、ルールテスト評価 60%、ポートフォリオ20%で総合評価とする				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	1週	シラバース説明	シラバースの内容を説明できる		
	2週	新体力テスト、集団行動	自分の現在の体力を確認できる、号令に合わせて(集団で)行進や方向転換などができる		
	3週	新体力テスト、集団行動	自分の現在の体力を確認できる、号令に合わせて(集団で)行進や方向転換などができる		
	4週	コルフ(雨天時卓球)	アプローチ等を意図したところに落とせる		
	5週	コルフ(雨天時卓球)	アプローチ等を意図したところに落とせる		
	6週	実技テスト			
	7週	卓球(雨天時に卓球をしていた場合は晴天時コルフ)	タフルスで試合ができる		
	8週	卓球(雨天時に卓球をしていた場合は晴天時コルフ)	タフルスで試合ができる		
4thQ	9週	実技テスト			
	10週	テニス(雨天時ハンドミントン)	ラリーからホーリーやスマッシュなどを打つことができる		
	11週	テニス(雨天時ハンドミントン)	ラリーからホーリーやスマッシュなどを打つことができる		
	12週	実技テスト			
	13週	ハンドミントン(雨天時にハンドミントンをしていた場合は晴天時テニス)	ハイクリア、クリア、ドロップと打ち分けることができる		
	14週	ハンドミントン(雨天時にハンドミントンをしていた場合は晴天時テニス)	ハイクリア、クリア、ドロップと打ち分けることができる		
	15週	実技テスト			
	16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができること。	1	
			自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	1	
			目標の実現に向けて計画ができる。	1	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
			日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	

			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内の相談が必要であることを知っている	1	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0